

耐熱性の評価

ゴムの性能を評価するため、熱をかけることがあります
それは、熱をかけるとゴムに変化が起き、比較や検証することができるからです

JISでは、耐熱性評価方法として熱老化試験があります
現品を実際の使用環境よりも高温空气中で一定時間暴露し劣化を促進させ、
暴露前後における現品の硬さや引張特性などの変化(率)を測定し、劣化度合いを測ります

Oリング現品で耐熱性試験

～ 試験前後の硬さの変化量 = 物性変化(硬化や軟化)を測定し劣化度合いを確認 ～

【サンプル】

形状 Oリング (NOK製)
サイズ P-12.5
(内径12.3x線径2.4)
材質 フッ素ゴム70°

【試験条件】

温度 230℃
時間 72h

【測定項目】

硬度変化量point IRHD-Mタイプ

【結果】

	測定結果	JIS参考規格値 (テストピ-ス)
硬度変化(point)	+1.9	+5以下

今回の試験では、JIS参考規格値と比べて
規格値以内結果であり、NOK製品の良好な耐熱性
が確認できました

弊社では、保有設備にて
JIS 熱老化試験はもちろんのこと、
現品での耐熱性試験(～360℃)と
試験前後での硬度比較もできます！

<使用試験設備> 恒温槽



一定温度で高温環境(～360℃)を保ちます

<使用測定設備> IRHD-Mタイプ硬度計



ゴムの硬さを測ります
厚さ1.0mmから測定が可能のため、
小径・薄物現品も測定できます

